

広島国際大学薬学部臨床薬学

## 佐々木 順一

東日本大震災の被災地支援薬剤師として 2 回、宮城県石巻市で活動した。最初は広島県医師会災害医療チーム (JMAT) の薬剤師として活動し (3 月 25 ~ 27 日)、その後、日本薬剤師会中国ブロック第 6 班として活動した (4 月 30 日 ~ 5 月 3 日)。その概要と活動を通して感じたことを報告する。

### 広島 JMAT の活動

日本医師会が災害医療チーム (JMAT) 派遣を決定した翌々日、3 月 17 日夜に広島県薬剤師会から派遣決定の連絡があった。準備が整っている病院単位の DMAT とは異なり、医薬品選定もこれからであった。不安は大きく、足手まといにならないよう薬に関する準備だけは万全で臨みたいと考えた。

出発までの 1 週間は、情報収集と携行医薬品の選定を行った。選定に当たっては「薬局・薬剤師の災害対策マニュアル (日本薬剤師会)」を参考にし、必要と思われる医薬品を追加した。災害現場でも医薬品の整理と情報管理は必要不可欠である。効率的な活動のために、携行医薬品を薬効別、使用頻度別に分類した (写真 1)

想定した疾患では、買い物カゴとブラケースがあれば調剤が実施可能である。携行医薬品は後続班にも引き継がれるので、医薬品リストを作成し、次の班へ配付をお願いした。添付文書集、薬剤の用法・用量集を作成し、広島県薬務室からは剤形写真集の提供を受けた。

24 日夜に現地対策本部・石巻赤十字病院に到着すると、まず現地のルールを全員で確認、把握した。われわれのチームは石川県チームと一緒に雄勝地区の巡回診療を担当することとなり、25 ~ 27 日の 3 日間で 87 人の患者を診察した。

被災 2 週間後でもあり、急性期の医療ニーズはほとんどなく、慢性疾患の処方ニーズが



写真1

# 東日本大震災における被災地支援活動報告

非常に高かった。津波で薬が流された被災者に、記憶と剤形写真集だけで、服用していた医薬品を同定するのは非常に困難な作業であった。生活への不安、避難生活による疲労を訴える方が多く、話を聞くことで少しでも気持ちが和らいでくれたらという思いが強かった。

広島 JMAT の活動はその後 3 週間継続した。第 4 班からは渡波小学校において診療を担当し、携行医薬品は在庫の補充以外に使用されなかった。慢性期に行くチームの携行医薬品選定に当たっては、現地採用医薬品の調査が必要であり、今後の課題であると感じた。

### 日本薬剤師会中国ブロック第 6 班での活動

中国ブロック第 6 班の 4 人は東京に集合し、レンタカーで石巻市を目指した。班といっても現地では別々の業務を担当する。石巻高校に設置された石巻市薬剤師会災害対策本部で割り当てられた私の担当は、広島 JMAT が活動した渡波小学校だった。状況の報告を受けていたので、不安材料は少なかった。

渡波小学校診療所は愛媛大学病院を統括に、赤十字病院チーム、東京都地区医師会、NPO が担当していた。私を含め薬剤師会から派遣された薬剤師は、愛媛大薬剤師の指示で診療所調剤を担当した。外来診療は 3 診制で、外来診療を担当するチーム以外は巡回診療を行った。

全て手作業であったが、医薬品はある程度整理され、医薬品リストが引き継がれていた。スムーズに調剤業務を行うことができた。リストの更新にも積極的に協力した。配属された渡波小学校での薬剤師の業務は、調剤業務、一般用医薬品の管理と供給、衛生活動の 3 つであった。

衛生活動は避難所に常駐している看護師と連携をとり消毒薬の配付を行ったが、避難所の本部にある一般用医薬品の整理までは手が回らなかった。説明を受けずに持っていつている状況だったので、薬剤師会で編成された「OTC 巡回チーム」に整理をお願いすると同時に、診察室前に「市販薬の相談も受け付



写真2

## 災害を理解する

### 災害時医療支援における薬剤師 その 2

けます」と掲示し、一般用医薬品を説明する体制構築も試みた。

「四十九日を過ぎたので…」そう切り出してこれ、家族を亡くした被災者の悲しみに触れたとき、涙が出そうになった。平和な生活をことごとく破壊し尽くす自然の猛威を前にすると、人間は無力であるかもしれない。しかしその中でも力を合わせて避難生活を送っている被災者の方を見ると、役立てることがあれば何でもしたい…そんな気持ちになった。

薬剤師会対策本部が移動することが決まり、石巻高校で鯉のぼりを上げることになった。みんなの復興の祈りがこもった鯉のぼりが空を泳いでいるのを背に現地を後にした (写真 2)

### 活動を振り返って

昼は調剤マシン、夜は PC でデータ整理という忙しい生活を送った。その活動の中で自分自身が心にとめていたことを「かきくけこ」にまとめてみた。これは、あるボランティアに習ったものをアレンジしたものである。

- 「か」活動目標を明確にして
- 「き」気づいたことを
- 「く」工夫して
- 「け」謙虚に
- 「こ」行動する

対策本部は現地のニーズを把握して最適な医療を提供するよう常に考えている。被災者支援では現地対策本部の指揮に従うこと、工夫しながら地道に医療活動を引き継いでいくことが非常に重要であると思う。そのためには全体のチームワークが必要不可欠である。今回の支援では、立場の異なる全ての支援者が心を 1 つにし、大きな困難を解決すべく活動ができたと思う。



## 薬のことなら 薬事日報ウェブサイト

『薬事日報』に掲載される記事を中心に、医薬業界のニュースサイトとして成長を続けています。読者の約 8 割が医薬業界に属しており、サイト全体のページビューは月間 100 万を超え、医薬業界のニュースサイトとしては最大規模に成長しています。医薬業界の情報収集にご活用ください。

「薬学生新聞」もウェブサイト公開中!!

<http://www.yakuji.co.jp>

薬事日報

検索